

# 雪わり草

安曇野赤十字病院広報誌



日本赤十字社  
Japanese Red Cross Society

2025 72号

## Contents

- 02 呼吸器内科が新設されました
- 04 全自動遺伝子解析装置の紹介
- 05 臨床工学課の紹介
- 06 2025年日本国際博覧会について
- 07 地域の診療所紹介
- 08 着任者紹介



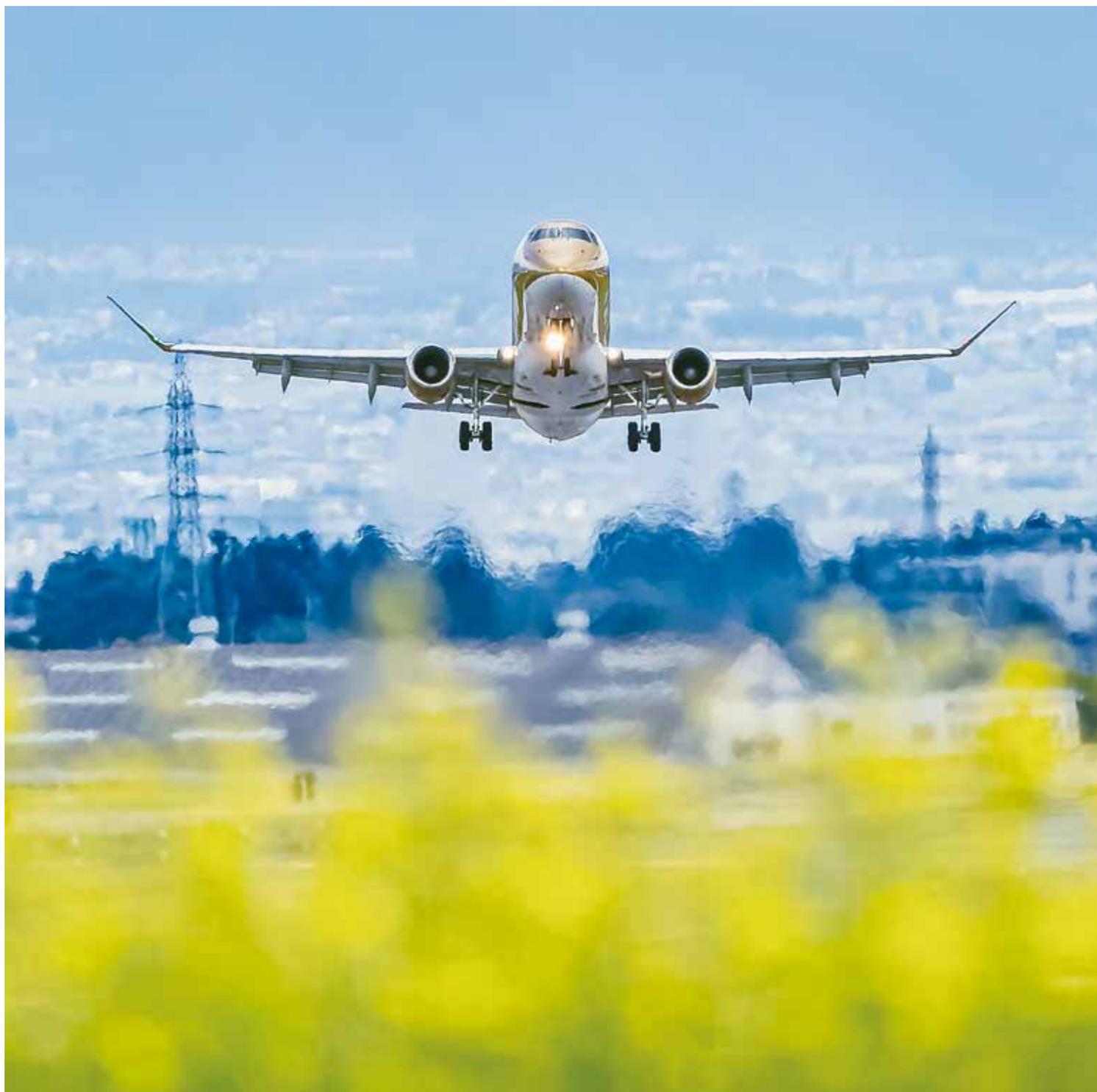
表題（愛称）雪わり草

冬の厳しさに耐え  
春の訪れを告げるように  
雪を割って可憐な花を  
咲かせる雪わり草。  
この小さな花の希望を持って  
逆境に耐え抜く力強さを  
紙面に載せ、地域の皆さまへ  
お届けしたく  
「雪わり草」と名付けました。  
花言葉：忍耐・信頼・はにかみやなど

## 写真解説

### 春の訪れに飛び立つ飛行機

長野県の寒い冬が終わり、信州まつもと空港で春の訪れを感じる菜の花を目の前に飛行機が飛び立つ瞬間。海外からの旅行客増加によるインバウンド需要が拡大され、地域の経済が活性化されることを期待したくなる情景です。



この広報誌は地球にやさしい再生紙を使用しています。

# 呼吸器内科が新たに開設されました

## 地域に根ざした連携医療をめざして



呼吸器内科部長 立石 一成

2025年4月より、当院に呼吸器内科が新たに開設されました。咳や息切れといった呼吸の症状は、身近でありながら時に不安を感じるものです。高齢化社会が進む中で、安曇野地域でも漏れることなく呼吸器領域の診療の重要性が増しています。これまで当院では外来診療を中心に他科と連携して診療を行ってき

ましたが、呼吸器内科の開設により、より専門的で丁寧な対応が可能になりました。今回の「雪わり草」では、この新しい診療科のご紹介を通じて、私たちがめざす地域医療のあり方をお伝えできればと思います。広報誌の表紙にもある「雪わり草」は、長い冬を越えて、雪の下からそっと花を咲かせる小さな植物です。その姿には、「信頼」や「自信」といった花言葉が込められているといわれています。厳しい季節のあとにも、静かに、でも確かに春がやってくる——そんな前向きな気持ちに重ねながら、私たち呼吸器内科もまた、地域の皆さまにとって頼りになる存在でありたいと願っています。



精密呼吸機能検査機

質性肺炎、肺がん、肺炎、気胸、睡眠時無呼吸症候群、慢性の咳など、呼吸に関わるさまざまな病気に対応しています。咳が続く、呼吸が苦しい、痰に血が混

じるといった症状がある方に対して、問診と診察を行い、必要に応じて胸部X線、CT検査、呼吸機能検査などを組み合わせながら診断を進めます。さらに、より詳しい検査や高度な治療が必要な場合には、地域の基幹病院と連携し、患者さんにとって最適な医療が受けられるようサポートしています。気管支鏡検査などの対応が必要なケースでは、紹介先との情報

共有を行いながら、安心して検査を受けていただけるよう配慮しています。当院の呼吸器内科では、地域の診療所や病院との連携(病診連携・病病連携)をとても大切にしています。紹介いただいた患者さんの診療を行い、状態が落ち着いたら再びかかりつけ医の先生のもとへお戻しいただくなど、切れ目のない医療を提供することを目指しています。

呼吸器疾患は、早期の対応が必要です。後の経過に大きく影響することがあります。「ちょっとした咳だけど気になる」「検査が必要か相談したい」——そんなときは、どうぞお気軽に呼吸器内科をご利用ください。これからも、「雪わり草」のように、静かにたたずみながらも確かな役割を果たす「信頼される」診療科として、安曇野地域の皆さまに寄り添ってまいります。



CT 検査装置

### 呼吸器内科の診療領域

 COPD・喘息	 間質性肺疾患	 肺がん
 肺炎	 気胸	 睡眠時無呼吸症候群

## 医療機器のご紹介

院内には様々な医療機器が存在しますが、今回は臨床工学課が取り扱う高度医療機器の一部をご紹介します。臨床工学課は主に生命維持管理装置の管理及びそれらを用いた治療を行っています。

臨床工学課

### 人工呼吸器

人工呼吸器とは、呼吸が困難な患者さんに対して、機械的に呼吸を補助または代替するための医療機器です。これにより酸素を体内に供給し、二酸化炭素を排出することができます。人工呼吸器は、以下のような状況で使用されます。

- ・重症の呼吸不全：肺炎や慢性閉塞性肺疾患(COPD)などで呼吸が十分にできない場合
  - ・手術中および術後：全身麻酔をかけた手術中や、術後の回復期に呼吸をサポートする場合
  - ・外傷や事故：重度の外傷や事故で呼吸が困難になった場合
- 人工呼吸器には、患者さんの状態に応じてさまざまな設定やモードがあり、医療スタッフが適切に調整します。



人工呼吸器

### 補助循環装置

補助循環装置は救急や循環器で使用されます。

- ・IABP（大動脈内バルーンポンピング）：大動脈にバルーンを挿入し、心臓の収縮と拡張に合わせてバルーンを膨らませたり縮めたりすることで、心臓の負担を軽減します。
- ・ECMO（体外式膜型人工肺）：血液を体外に取り出し、人工肺で酸素化してから再び体内に戻すことで、心臓と肺の機能を補助します。

これらの装置は、急性心筋梗塞や心原性ショックなどの重篤な心臓疾患の治療に使用されます。



IABP



ECMO

### 血液浄化装置

血液浄化装置とは、腎臓の機能が低下した患者さんに対して、血液中の老廃物や余分な水分を除去するための医療機器です。腎臓が正常に機能しない場合、体内に毒素や不要な物質が蓄積してしまうため、透析装置を使ってこれらを取り除きます。通常の透析は外来透析室で行われ、血液を体外に取り出し、人工腎臓を通して老廃物を除去し、きれいになった血液を体内に戻します。

### これからの高度医療機器について

高度医療機器にもAIが急速に応用され、その進化により臨床工学課の役割も重要になっていきます。これには様々な課題を克服しなければなりません。日々技術の向上に努め、今後も最先端の医療技術を提供し続けることをお約束します。



血液浄化装置

## 検査部細菌検査室に新しく導入された全自動遺伝子解析装置を紹介します

どのような装置なの？

皆さんはPCR法というものを存じでしょうか。新型コロナウイルスの検査で耳にしたことがある方も多いと思います。PCR法は遺伝子検査法の一種で、目的の病原菌遺伝子を増幅・検出することで検体中の病原菌の有無を検査する方法です。従来の方法では複数の工程において専用の環境・機器および操作が必要で結果を得るために時間がかかりましたが、本装置は炊飯器ほどのコンパクトな装置内で複数の工程を自動で行う装置で、きわめて簡便、正確かつ安



全自動遺伝子解析装置  
Gene Xpert

全に遺伝子検査が実施でき、1、2時間で結果を得られます。また、様々な専用試薬が発売されており目的に合わせた用途で活躍します。

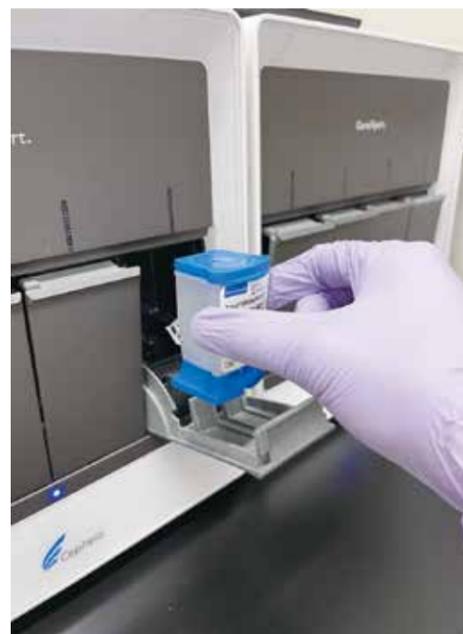
当院では何のために使っているの？

現在当院では院内感染対策で重要となる *Clostridioides difficile* (クロストリディオイデス・ディフィシル)・抗菌薬の使用によって乱れた腸内環境の中で増殖し、下痢症・腸炎を引き起こす菌)の早期検出を目的とした検査と、血液培養検査(血液中に菌が侵入していないかを調べる検査)から黄色ブ

ドウ球菌が検出された際に通常使う抗菌薬が効くかどうかを早期に判別するための検査を行っています。当院では導入していませんが、他にも結核菌や性感染症の原因菌、各種ウイルスなど様々な病原菌を検出する検査に使用されています。

未知の感染症が流行した時には役立つの？

新型コロナウイルスが流行した際には早期に専用試薬が開発され世界中で使用されました。未知の感染症が流行した場合にも専用試薬が早期に開発されることが予想され、検査に役立つことが期待されます。



検体架設の様子

毎号地域の診療所を紹介させていただいております。かかりつけ医の参考にいただければ幸いです。

医療法人 博愛会  
**中田医院**  
院長 中田 真佐雄 医師  
〒399-8303  
長野県安曇野市穂高787-1  
0263-82-2339



OutLine

- 【診療科】 内科・小児科
- 【診療時間】 午前 9:00~12:00、  
午後 15:00~18:00
- 【休診日】 木曜日、土曜日午後 祝祭日、  
日曜日  
12/30~1/3、8/14~16  
及び当院の定めの日

私は平成2年冬より父の診療を手伝い、平成24年より一人体制で診療をしております。一人体制になつてからは、長期の休みを取ることが難しく、健康面が心配であり健康に気を付ける事を優先的に考えて診療にあたっております。

先代の時代より「温もりと思いやりの心と真摯な姿勢で地域の皆様への医療の提供に努める」をモットーに、スタッフ一同、日々の診療に向かっております。診療の中で病院での診療が必要と考えられる患者様は安曇野赤十字病院様にお願ひするケースが多く、その際には快く患者様を引き受けてくださり本当に有り難うございます。安心して日々の診療に従事する事が出来ております。

当院は父が昭和29年に穂高柏矢町駅通りに開業、平成3年10月にR147沿いの現在の場所に移転して現在に至っております。父の時代より安曇野赤十字病院を始め近隣の医療機関の皆様には公私共々大変お世話になっており、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

インタビュー

趣味と言えるかどうか分かりませんが、好きな事と言えば、ゴルフと音楽鑑賞でしょうか。ゴルフはあちらこちらが痛いなどの故障が多くコンペ等にはなかなか参加出来ずにあります。体調を見ながらコンペには是非とも参加したいと考えている次第です。好きな音



中田院長先生とスタッフの皆様

楽はロック・ジャズ・ブルース等です。最近では音楽配信で、好きな音楽をスマートフォンなどで手軽に楽しめる時代となり、60年〜70年台の音楽を中心に聴いております。レコードやCDを収集していた時代とは異なり、いつでもどこ



4月13日から大阪夢洲で開催されている2025年日本国際博覧会(略称「大阪・関西万博」)に、赤十字が「国際赤十字・赤新月運動館」パビリオンを出展しています。同パビリオンは赤十字の職員とボランティアによって運営されており、当院からも3名の職員が派遣されることになりました。私もその1人として、4月22日から5日間の業務にあたって



パビリオンでは、プロジェクションマッピングや半球型ドームシアターでの映像体験を通して、赤十字の人道理念「人間を救うのは、人間だ」The Power of Humanity」に触れることができます。また、石巻赤十字病院の赤十字旗の美術品も展示されています。同病院は東日本大震災の発生から100日間で1万8千人以上の患者を受け入れ、その間絶やすことなく赤十字旗を掲げ続けました。風雪にさらされ続けた旗はすり切れて痛々しい姿になっていますが、「すべての患者を受け



感染管理室主事 山本 穂波

入れる」という赤十字の決意を象徴しています。パビリオンの最後では、来館者が感じたことをメッセージとして残すことができるようになっていきます。私の勤務中も「献血を続けます」や「救急法講習にチャレンジします」といった決意表明や、実際に東日本大震災で被災された来館者からの感謝の言葉が残されていました。感じ



たことを言葉にすることで「自分に何ができるのか」を考え、実際の行動につなげる。その背中を押すパビリオンになっていきます。私も実際にパビリオンを体験し、平和な日常の尊さや、困難に直面しながらも諦めない「人間の力強さ」を感じました。同時に、困っている人たちのために自分には何ができるのか、改めて考える機会になりました。世界には、戦争や災害により困難に直面している人が多くいます。私も赤十字の一員として、自分にできることを問い続けたいと思います。皆さんにもぜひパビリオンに足を運び、「自分に何ができるのか」を考えるきっかけにいただけたらと思います。



院長先生はじめ温かく迎えて下さったスタッフの皆さん、お忙しい中ありがとうございました。先生のお話をお伺いしていると優しいお人柄が伝わってきました。当院からも近く日ごろから大変お世話になっております。これからも引き続きのご活躍をご祈念いたします。

でも音楽を楽しめる時代となり、なんと便利な時代になったものかと驚くばかりです。現在当院は内科を中心に診療しており、往診・訪問診療も行っております。私の頭にも白い物が混じり始めましたが、高齢化のこの時代、地域の皆様にお気軽のお声を掛けて頂ける身近な診療所として努力して参りますので、引き続きのご指導・御鞭撻・叱咤激励を宜しく御願ひ申し上げます。

## 着任者紹介



看護部長

柏原 亜由美

今年度から看護部長を拝命しました、柏原亜由美と申します。私は新人看護師から安曇野赤十字病院に入職し、現在に至っております。安曇野は働く環境として大変良いところで、近頃は県外から山岳や自然環境に魅かれて当院に就職して下さる方も増えております。

また安曇野赤十字病院は地域の皆さまに支えられております。地域の皆さまに信頼されるよう、赤十字看護師の丁寧さ、やさしさ、看護の技を大事にできる看護師を育成して参ります。皆様を選んでいただける地域病院を目指し、地域との繋がりを大事にしていきたいと思しますので、どうぞよろしくお願いいたします。



呼吸器内科部長

立石 一成

4月より呼吸器内科に赴任しました立石一成と申します。茅野市出身で、前任地は信州大学医学部附属病院でした。長年、非常勤医師として週に1回、当院の呼吸器内科外来を担当してまいりましたが、このたびご縁をいただき、常勤医として勤務することとなりました。専門は呼吸器疾患および胸部腫瘍で、今後は入院診療も含め、幅広く呼吸器疾患に対応してまいります。安曇野地域の皆様にとって、安心して療養できる医療の一助となれるよう努めてまいります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



歯科口腔外科部長

秋田 大輔

2025年4月より安曇野赤十字病院に赴任しました、歯科口腔外科の秋田大輔と申します。広島県で生まれ、小・中・高等学校時代は大阪府で過ごしました。2003年に大学進学を機に長野県に移り住み、以来、歯科医師として県内の複数の総合病院において歯科口腔外科に勤務してまいりました。安曇野地域での勤務は今回が初めてとなります。窓から見える壮大な山々に、日々感動しております。

歯科口腔外科という診療科は、あまり聞き馴染みのない方もいらっしゃるかもしれませんが、院内の先生方や医療スタッフの皆様、地域の歯科医師の先生方と連携しながら、地域の皆様のお役に立てるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



消化器外科医師

宮下 遼平

本年度4月より安曇野赤十字病院消化器外科に着任いたしました宮下遼平と申します。長野県上田市の出身で信州大学を卒業後に母校の外科学教室 消化器・移植・小児外科学分野に入局しました。昨年は大学病院にて、消化器がんを中心とした外科診療に従事してまいりました。若輩者ではございますが、これまで培った知識と経験を活かし、地域の皆様のお力になれるよう誠心誠意努めてまいります。

日々進歩する医療に柔軟に対応しながら、安全で質の高い医療の提供を目指して参りますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



腎臓内科医師

堀内 勇希

4月から安曇野赤十字病院へ赴任しました、腎臓内科の堀内勇希と申します。医師6年目になりました。出身は長野県の筑北村で、秋田大学を卒業後、信州大学や長野赤十字病院を経て安曇野にやって参りました。趣味は社会人になってからゴルフを始め、とてもハマっております。ゴルフをやる方がいればぜひ声をかけてください。仕事面では腎臓疾患や透析関連の治療はもちろんのこと、内科全般的な知識を少しでも増やせるようにしっかりと働きたいと思っております。フットワークの軽さを売りにしているので困ったことがあればお気軽にご相談ください。ご迷惑おかけすることもあるかと思いますが、よろしくお願い致します。



循環器内科医師

佃 柊磨

2025年4月より赴任しました、循環器内科医の佃 柊磨（つくだ しゅうま）と申します。神奈川県相模原市出身で、聖マリアンナ医科大学を卒業後、2022年より相澤病院での初期臨床研修から長野県でお世話になっております。信州大学医学部附属病院にて1年間、心不全・弁膜症・不整脈・虚血と幅広く研鑽を積み、今年度より初めて安曇野市へまいりました。医師4年目・循環器内科医2年目ではございますが、皆さまに安心かつ安全な医療を提供し、「先生に診てもらってよかった！」と笑顔で言っていただけのように、日々邁進してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



研修医

二宮 克仁



研修医

谷口 みつき



研修医

石神 遼吾



研修医

岡部 拓海



研修医

滝 萌々香